

2. 2 課題研究交流会

(1) 研究開発の課題（研究概要・ねらい）

自然科学部の研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の課題研究の質を向上させ、意欲や論理的に考える力を高める。

(2) 研究開発の経緯

新聞社等が主催する科学コンテストは、研究成果が評価される場になっており、研究で生じた問題点や疑問について質問ができる場になっていない。本交流会は、生徒が自分の研究内容について簡単に説明した上で、研究上の疑問や問題点について相談ができる機会として設定している。本年度で7回目の実施となる。



ポスター発表の様子

ア 研究の内容・方法

課題研究についてのポスター発表と相談、理学の研究方法に関する講義

イ 連携先

名古屋大学理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科

ウ 参加生徒

参加者：愛知県内の高等学校 生徒136名、教員16名

生徒：岡崎28名、江南6名、向陽16名、田口3名、知立東6名、豊田西8名、名城附11名、明和7名、一宮市立南部中1名、向山小1名、一宮48名
教員：岡崎1名、江南1名、向陽2名、田口1名、知立東1名、豊田西2名、名城附1名、明和2名、一宮10名

エ 日時場所

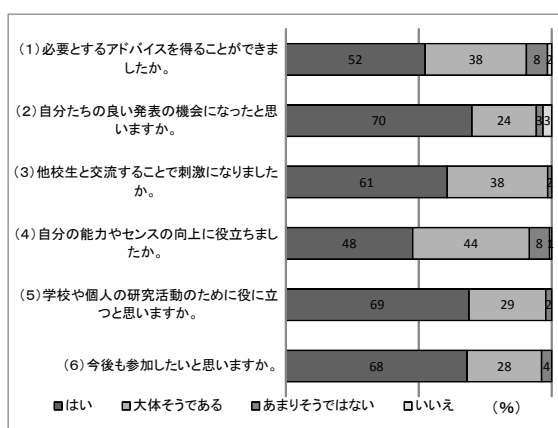
平成27年11月14日（土） 9時00分～16時30分

名古屋大学理学部南館 1 F 多目的室及び大講堂（坂田・平田ホール）

オ 実施内容〔注意・工夫した点〕

ポスター発表の前に、ホールで1分間のプレ発表を行い、参加者が全ての発表の要旨を確認できるようにした。また、ポスター発表は前半と後半に分け、発表者も多くの発表を見られるようにした。

カ 検証（成果と反省）



生徒アンケートでは、多くの生徒が、「良い発表の機会となった」、「他校の発表を見て刺激になった」、「研究者からのアドバイスが自身の研究のために役だった」と答えており、事業の効果が確認できる。また、これから研究を始めたいと考えている高校生も参加しており、課題研究の普及の面からも効果があった。

要望事項として、「会場がやや手狭である」（生徒）や「回数を増やして欲しい」（顧問）などが複数あった。生徒の課題研究を支える良い機会になっているので、今後検討したい。

参加生徒の感想から

- ・大学の先生にアドバイスをしてもらえたのはとても参考になり勉強になりました。
- ・自分たちの学校で行っていないジャンルの研究にも触れられて勉強になりました。題材や視点等、参考にしたいと思います。
- ・研究交流会の回数を春と秋の2回開催にいただけると、春に見つけた課題や意見を研究し、また、より高度な発表ができると思います。
- ・生徒同士が自由に討論できる環境は少ないので貴重な機会だと思う。
- ・1分間スピーチは、ポスターを見る前に概要を理解することができたのでありがたかった。